

失語症学演習

[演習] 第3学年 前期 必修 1単位

《担当者名》若松千裕 wakamatsu@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

失語症検査の施行法を学び、実際の症例の検査結果から、症状の捉え方、訓練プログラムの立案、評価報告書および症例報告書の書き方を学ぶ。また掘り下げ検査について目的と施行法、結果の解釈について学ぶ。

【学修目標】

一般目標

1. 失語症検査の目的、施行法を理解する。
2. 失語症検査の結果の解釈（症状の分析）について学ぶ。
3. 失語症検査から訓練プログラムの立案を学ぶ。
4. 症例報告書の作成技能を身に付ける。
5. 重度失語症検査について理解する。

行動目標

1. 失語症検査を正しく施行し、その結果を解釈できる。
2. 失語症検査結果から訓練プログラムを立案できる。
3. 失語症検査結果の評価報告書を作成できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 2	失語症検査解説	WAB失語症検査解説 WAB失語症検査の施行法、注意点について学ぶ。	若松千裕
3) 5	失語症検査演習	WAB失語症検査演習	若松千裕
6) 8	失語症の訓練立案	認知神経心理学的モデルを用いた失語症状の理解および訓練法について学ぶ。	若松千裕
9) 13	失語症：症例検討	失語症例の詳細な検討 症状分析、訓練プログラムの立案、訓練プログラム立案について学ぶ。	若松千裕
14) 15	掘り下げ検査演習	トークンテストなどの検査法の意義・方法を学ぶ。	若松千裕

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート20%、定期試験（筆記試験）80%

【教科書】

WAB失語症検査作成委員会 編 「WAB失語症検査 日本語版」（マニュアルとカード） 医学書院 1986年
小嶋知幸 編 「失語症の評価と治療」 金原出版 2011年
藤田郁代 他 編 「標準言語聴覚障害学 失語症学 第3版」 医学書院 2021年

【備考】

Google Classroomを利用して課題を提出する。

【学修の準備】

- ・基礎的な知識を教科書を使用して予習する（20分）
- ・訓練プログラムの立案について教科書を使用して復習する（20分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

(DP3) 言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

(DP4) 関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。

【実務経験】

若松千裕（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での臨床経験を活かし、失語症状の分析、訓練プログラムの立案など失語症の言語治療について実践的演習・講義を行う。